

第6回道泉地区協議会 結果について（報告）

日 時	平成 30 年 2 月 8 日（木）19:00～20:30 於：道泉地域交流センター
出 席 者	【地域力推進協議会】名 【教育部】教育部長、学校教育課長、学校教育課主幹、学校教育課専門員、 学校教育課主事
配布資料	別添のとおり
【議題】※司会進行：道泉地域交流センター長 1 あいさつ 井上センター長より挨拶がされた。 涌井教育部長より挨拶がされた。 2 協議及び報告事項 （１）構成員について 事務局から、本日は協議会役員、各グループ代表者、小学校中学校代表者、地域代表者併せて 22 名の出席があることが報告された。 （２）小中一貫校の取り組み状況などについて ① カリキュラムの検討状況について 市から【資料 1－1】に基づき、小中一貫校におけるカリキュラムの中間報告がなされた。 ○ 現在、瀬戸市内の教員でカリキュラムの編成を行っている。その内容としては、授業毎にどのような内容を学習するかということであるが、その内容を踏まえ、今回は中間報告ということで、カリキュラムの考え方という形で資料 1－1 にまとめた。 ○ 小中一貫校において、大きく変わらない部分については、学習内容である。1 年生から 6 年生までは小学校新学習指導要領、7 年生から 9 年生（中学 1 年生から中学 3 年生）までは、中学校の新学習指導要領を基盤として、必要な部分に関しては、付け加えたり、整理したりしながら、教育課程を編成し授業を行っていきたいと考えている。 ○ 大きく変わる部分としては、学習の方法である。子どもたちの発達段階を考慮し、4・3・2 の枠組みなどを活用しながら、9 年間の成長を見通した、一貫性のある教育活動を進めていきたいと考えている。 ② 通学路安全対策について 市から【資料 2－1、2－2】に基づき、通学路の安全対策についての説明がなされた。 ○ 夏に実施した通学路安全点検（資料 2－1）を基に、対策が必要な場所について、今後どのような対策を実施していくかということについて、資料 2－2 でまとめた。 ○ 資料 2－2 に『検討します。』という文言があるが、実施しないわけではなく、実施していく方向である。ただし、実施日時について未定な部分もあるため、このような文言になっている。	

- 29-I-3について、土地の形状上道の拡幅は難しいが、ドライバーへの注意喚起や外側線の再設置等、できることを実施していく。また、Sコートラインという、塗装も行う予定である。
 - バスについては、明確な要望を道東地区の皆さまからいただいているため、本日はお答えできる部分はまだないが、しっかりと検討を重ねたものを、できるだけ早い段階でお示しできるようにさせていただく。
- ③ 校名候補について
市から【資料3】に基づき、校名の候補についての説明がなされた。
- ④ Q&Aについて
市から1月版のQ&Aについての説明がなされた。
- ⑤ モアスクールについて
市からモアスクールに関する、今後の進め方について説明がされた。
- 1月及び2月に5地区のPTAの役員の方と教頭先生と共に、今後の進め方についての話し合いをした。
 - 5小学校において、それぞれでモアスクールに関する独自のアンケートを実施した。そのアンケート結果を踏まえた上で、新年度に再度新一年生も交えて、アンケートを実施する予定である。

質疑応答

- 質問1：モアスクールは小中一貫校で行うのか、それぞれの地区で行うのかどちらか。小中一貫校で行うことになると、迎えが大変になるので、地元で行っていただきたい。
- ⇒回答1：現在、その点について、PTAの役員の皆さまや教頭先生を交えて、議論を重ねている。一貫校か地元か、どちらでモアスクールを実施することがより良いか、アンケートを実施しながら、検討を重ねたい。進捗状況については、地区協議会の皆さまにもご報告させていただく。
- 質問2：現在話し合いの中心となっているのは、小学校高学年の保護者であると考えられるが、今後利用していくであろう、低学年の保護者や未就学児の保護者の意見も聞いていただきたい。
- ⇒回答2：新年度のアンケートについては、新1年生から新4年生までを対象とする予定である。
- 意見1：地域にできるだけ子どもを返してほしい。
- 質問3：現状の教育現場でも時間が足りないと聞いているが、このカリキュラムもさらに行うことは、子どもや教員の負担になるのではないか。
- ⇒回答3：年間の総授業時数の中で、このようなカリキュラム内容を実施することが可能であると判断したため、カリキュラムの中に組み込んでいる。0時間目や7時間目を実施することはない。現在も行っている教育活動を整理し、9年間を見据えた教育活動を行っていくという考えであるため、教員に今までよりも大きな負担を強いるということは基本的

にはないと考えている。

質問４：小学校１年生から英語教育を行うことで、英語嫌いが増えるのではないかな。

⇒回答４：チャンツと呼ばれる、音楽や体を使って実施するというプログラムなども実施しながら、楽しみながら英語に触れる機会を増やしたいと考えている。

質問５：小中一貫校だけこの内容を行うことで、負担になるのではないかな。

⇒回答５：日常的な小中交えた縦割り班での活動等は、小中一貫校でしかできないことであるが、小学校１年生から英語教育を実施するなどは、全市で導入していく予定であるため、物理的に行えないこと以外は基本的には全市的な取組として実施していく。

質問６：カリキュラムにおける、「ＴＴ制」「少人数制」とはどういうことか。

⇒回答６：ＴはTeacher のことで、教員が２人で授業を行っていくことである。例えば、１人が全体授業を行い、もう１人が個別指導を行うなどである。時には、教員が３人で実施することもあるが、これらは人員配置にも関わってくることである。少人数制とは、元々３０人であった１クラスを１５人と１５人などに分け、それぞれの部屋で指導を行うという方法である。

質問７：小中一貫校で人数を増やすことと逆のことを言っているような気がするがいかかがか。

⇒回答７：その部分だけ取り上げると、逆のように感じるかもしれないが、人数が増えることにより、多様な人と関わったり、クラス替えをすることができたりというメリットもあるため、そのような環境でもあり、個別指導もできるという環境という両面の良いところを行っていききたい。

質問８：カリキュラムの健やかな体の育成の部分で、体力向上は１・２年生から運動促進プログラムを実施するとあるが、これは試験的に低学年で実施するということか。

⇒回答８：市内の数校で既に実施しているところもある。それを踏まえて、小中一貫校でも運動プログラムを実施し、さらに学年をあげて実施していきたいと考えている。

質問９：カリキュラムにおける、運動促進プログラムや、補助運動の充実とは、具体的にどのようなことであるか。

⇒回答９：大学との連携で行っているものであり、跳ぶ、投げる、走るなど、体全体をバランス良く使うプログラムというものが開発されてきており、種目に応じた準備運動も実施しているが、それだけではなく、体力の向上につながる運動を取り入れていく。

質問１０：従来行っていた腹筋運動が腰痛につながるなど、従来のものをそのまま行っていくのではなく、大学の研究を取り入れて、新しいことを実施していくという考え方で良いか。

⇒回答１０：その通りである。

質問１１：英語についても、昔は文語体だけ学習していたが、現在の子どもたちは、生きている英語を学習していると考えている。大学でも研究されていると思うので、その点も積極的に取り入れ、教科の中のテストだけで評価するものだけではなく、１年生から楽しみながら使える英語を学ぶことができるという考えで良いか。

⇒回答１１：その通りである。昔は、外国人の教員が英語を教えることは、すごく特別なことであったが、今ではＡＬＴとして外国人の先生が普通に学校にいて授業を行ったり、色々な教材を用いたりしながら、楽しみながら学ぶことができると考えている。さらに、理想を

言えば、オーストラリアとニュージーランドの交流校ともICTを活用して、日常的に交流ができることができるなどすればなお良いと思っている。

質問 1 2 : 設備さえ整えれば、小中一貫校や小中一貫教育を行わなくても、実施できるのではないかな。

⇒回答 1 2 : 確かにそうであるが、9年間を見通した学習活動の中に、それぞれの活動を取り入れていけるのではないかと考えている。

質問 1 3 : オーストラリアやニュージーランドとの交流は、小中一貫校開校後も、引き続き行っていくか。

⇒回答 1 3 : 形は少し変わるかもしれないが、引き続き行っていく。

質問 1 4 : 昨年末では、5・6年生で50分授業を実施していくということも検討されている様であったが、そのことは無くなったのか。

⇒回答 1 4 : 小学校高学年といえども、長い休み時間は確保すべきだという意見と、50分授業を実施すべきだという意見と半々ぐらいであり、検討している最中である。

質問 1 5 : 学校の役員を降りてしまうと、情報が全く入ってこない。Q&Aに「単に人数が少ないからといった理由で統合することは考えていない」とあるが、人数が少ないから統合すると考えているため、矛盾していると感じる。アクションプランで様々なことが語られているが、結局は本山中学校だけが廃校になるということである。特に陣屋町から西側の地域住民の喪失感が大きい。教育委員会として、本山中学校を廃校にした喪失感を補うための、何か計画はあるのか。祖東中学校の地域の方は、自分の学区に学校ができるため良いと思うが、こちらの地域の喪失感を埋めるために何ができるかを考えていただきたい。また、小学校についての跡地利用の考え方はQ&Aに書かれているが、中学校についての記載が何もない。

⇒回答 1 5 : 現段階ですぐにお示しできるものはないが、子どもを地元に戻してほしいという道泉地区の皆さまの想いを受け止めた上で、皆さまのご意見も聞きながら、今後も何ができるか検討を進めていきたい。また、学校は敷居が高いとよく言われているが、学校としては、学校へも足を運んで子ども達の活動などを見ていただきたいという気持ちがある。現在の場所よりは遠くなるが、一貫校での子ども達の姿も引き続き見ていただきたいと考えている。

本山中学校の敷地については、借地であるため、返していく方向で話を進めている。その他の跡地の活用方法などについては、経営戦略室の方で検討をしているところであるため、次回今後の方向性などのご説明をさせていただきたい。

意見 2 : 回答が難しい部分もあるかと思うが、この地区に何が残るのか、今後目に見える形で示してほしい。

質問 1 6 : カリキュラムについて、1年生から9年生までの異学年交流とあるが、6年生のリーダーの機会が減ってしまうのではないかな。

⇒回答 1 6 : 小中一貫校という9年間の側面ももちながら、基本的には小学校は6年生、中学校は3年生という枠組みは変わらない。そのため、小学校6年間の最高学年が6年生ということとは変わらない。6年生までの縦割りというものも可能であるし、9年生までの縦割り

ということもできるということである。6年生がリーダーシップを発揮できる機会も設けていく予定である。

意見3：資料を見ると、9年生のみがリーダーシップを発揮できるというように読み取れる。

質問17：英語教育について、早い段階から英語に親しむことができることは良い事だと感じる。具体的にどのレベルに到達することを目標としているのか。

⇒回答17：英検3級程度の取得レベルを目指している。ただし、学校で行う英語教育の最終点が英検3級というわけではなく、カリキュラムを実施した結果、英検3級ぐらいの力はあるという状態を目指している。

質問18：「10分から15分の短時間学習」とは、具体的にどういったことを指しているのか。

⇒回答18：簡潔に申すと、九九や計算などの反復練習などを行うことをイメージしている。

質問19：このカリキュラムを実施し、実際に行った後に無理が生じた場合などは、10項目の中で優先順位などはあるか。

⇒回答19：今のところ優先順位をつけるという考えはない。ただし、様々なことを教えたいという教員側の想いはあるが、欲張りすぎて時間数に入らなくならないように、計画を立てていきたい。

質問20：資料には1年生から9年生という書いてあるが、中学7年生という呼び方になるのか。

⇒回答20：現在便宜上わかりやすくするために、1年生から9年生という言葉を用いている。

意見4：今回のカリキュラムの資料はとても見やすく、力が入っていることがわかる。今後通学路などの資料も力を入れていただきたい。

質問21：通学路について、銀座通りも同様にカラー舗装などはできないか。

⇒回答21：全てをカラー舗装にしては、効果が薄れる場合もあるため、その面も含めて検討していく。

意見5：道泉地区は学校から遠い場所になってしまうが、他の地域の方も道泉地区に住みたいという場所にしていきたい。

質問22：本山中学校の土地について、プライベートな話かもしれないが、企業の土地であるという話や、個人が所有しており、早く返してほしいという話であるなどの噂話が出ているが、実際のところどうであるか。

⇒回答22：土地の所有者の話については、プライベートな話になるため、回答は控えさせていただく。

意見6：通学路については、時期や時間帯によって状況が違うため、地元住民はそのような地元住民でしかわからない状況などを市に伝えていくべきであると感じる。

質問23：バスに関して、いつまでに回答をいただけるか、日時を教えてください。

⇒回答23：まだ財政面での協議が終わっていない段階で、皆さまにお知らせすると、混乱を招くことになるため、現段階では日時をお伝えすることはできない。ただし、次回に、現段階でどんな協議を進めているかなどできる限り伝えていきたい。

意見7：昔より、子どもの荷物が重くなっているという現状があり、子どもの腰痛にも繋がっている。そういった面も踏まえ、スクールバスが必要というような財政折衝もしていただきたい。

協議会：以前、そのような意見もあり、学校のスペースとして、荷物を置けるロッカーなどのスペースを用意する予定という話があったかと思う。スクールバスの話とは別問題ではないか。

⇒回答：荷物が重くなるという問題は、道泉地区だけの問題ではなく、全市的な問題だと感じているため、その対応が今後必要になってくるということは感じている。スクールバスについては、道泉地区の子ども達が、どのように安全に学校に通うことができるかという観点で、検討を進めている。

(3) 今後の予定について

次回地区協議会は4月16日（月）午後7時から行わせていただく。

■第7回 道泉地区協議会

日時：平成30年4月16日（月）午後7時から

場所：道泉地域交流センター

備 考